

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

題字の背景画像は rongorongongo の文様から作成したものです

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

茨城キリスト教学園文化祭 シオン祭

ASIAN BAZAAR & CAFE



十一月と言えば学園祭の季節です！
毎年様々なサークルや部活が色々な模擬店を開いてたり、お笑い芸人のらいぶがあったりと様々な出し物が、学園祭を盛り上げていましたね。
私たちアジアンボランティアのメンバーも毎年恒例のアジアンザール今年も無事に開催しました。震災の影響もあり、例年

よりも買い出しに行ったメンバーが少なくちよつと商品が少なかったけれど、シヨールやお香、アクセサリーなどを中心に多くの商品が店頭に並びました。
当日は、学園の敷地内に幼稚園が出来たのが関係するのかわいともよりも小さな子どもたちがたくさん来てくれました。
【2面へ続く】

インターンシップ

ホテルテラスサスクエア日立におけるインターンシップが11月に2週間行われました。

今回は文化交流学科の2年生が二人参加し、ホテルでの接客などの体験をしてきました。今回は二人のうち一人から感想を頂きました。これから皆さんの就職活動の参考になればと思います。 大砂

アルバイトとは違った体験

文化交流学科2年

内田裕人

今回、ホテルテラスサスクエア日立でホテルの仕事を経験させてもらった。私は元々ホテル関係の仕事に興味を持っていたので、ホテルの宴会場でアルバイトをしていたが、今回のインターンシップはアルバイトとは違

う体験ができた。体験させてもらった事は宴会とホテルの中にあるカフェのウェイターだ。ほとんどは宴会でアルバイトの経験もあり、自分でもそれなりに教えてもらった仕事はできたと思った。仕事内容は宴会のためのテーブルやイス、皿などの準備で、始まってからは料理や飲み物運び、使い終わった皿などがあれば下げ、片付ける。聞いた見たりはただでは簡単そうなのだが、ホテルマンとして大切なのは、細かなサービスなのだ。本物のホテルマンは細かなサービ

スができて、気が利くと思った。【6面へ続く】

12年1月号目次

- 1～2面 ◆アジアンバザール
- 1、6面 ◆インターンシップ
- 2面 ◆アジアンボランティア
- 3面 ◆ベトナム人留学生感想
- 4面 ◆ヨーロッパ香道普及
- 4～5面 ◆地球市民論講演会
- 6面 ◆沖縄留学 交流会
- 7面 ◆就職体験記
- 7～8面 ◆四年生のつばやき
- 8面 ◆編集部員募集
- ◆編集後記

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のよいうなものが書いてありました。この文字はまだ解読されていません。これが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。

【1面から続き】
 コロコロオモチャが
 とっても人気で子どもた
 ちの楽しそうな声が聞け
 ました。可愛かったな
 く
 そして今年はいくつか
 と会場も違ったり、久し
 ぶりのミャンマーの商品
 も並んでいつもとちよつ
 と違った雰囲気での開催
 だったのも、なかなか新
 鮮でした。
 ベトナムコーヒーの販
 売も最初はやるかやらない
 かもめたけれど、最終
 的には開催出来て多くの
 人がベトナムコーヒーを



今年のボランティア

今回 IC-ANN ではアジアンボランティアおよびアジ
 アンバザールの収益を東日本大震災の復興を支援す
 るために使用しました。

寄付内容

- ◆南三陸の漁業者を支援するグループに 10 万円
- ◆石巻で子どもの遊び場関連の支援をするグループ
 に 10 万円
- ◆本学園「共に生きる」プロジェクトに 10 万円

以上のように計 30 万円の寄付を行いました。

IC-ANN は Ibaraki Christian Asian Neighborhood Network の省略形です。
 カンボジアでのボランティア活動、アジアンバザール、アジアンボランティア・
 サポート基金を包含するネットワークのことです。

注文してくれました。
 今年はメンバーが少な
 いなか、皆で協力して四
 苦八苦しながらも楽しく
 アジアンバザールを開催
 できて本当に良かったで
 す。
 また今年はいちいち国際
 フェスティバルにも出店
 し多くの一般の方にもア
 ジアの雰囲気をお届けす
 ることが出来ました。
 今年の収益金は東日本
 大震災の復興支援の寄付
 金として利用させていた
 だきました。 大砂



アジアンボランティア サポート基金

募金報告およびボランティア報告



Be One のの皆さんと

05年スマトラ沖巨大地
 震による津波被災地復興
 支援に出かける卒業生の
 サポートとして始動した
 この基金は、その後はカ
 ンボジアでのボランティ
 ア活動などに補助金を支
 出してきました。しかし
 今年は、東日本大震災の
 復興支援に義援金を送ろ
 うという目標をたてて動
 き出し、6月と12月に校
 内で募金活動を行い、多
 くの方の協力を得ること
 が出来ました。

今回の報告では寄付金
 をお渡しした Be One の
 活動に参加したメンバ
 ーから活動内容の報告をし
 てもらいます。

9ヶ月目 現代英語学科2年 鈴木香奈

3月の東日本大震災か
 らちょうど9ヶ月目の12
 月11日、現代英語学科の
 Mike McLain 先生と本
 学学生の計5名で、宮城
 県にある石巻市へボラン
 ティアに向かいました。
 今回のボランティアは海
 岸から約100mにある車の
 修理工場の大掃除。海岸
 から近かったため、津波
 の影響が大きく、工場内
 はかなりのダメージを受
 けていました。作業は石
 巻市を拠点として震災直
 後からボランティアして
 いる Be One チーム、ハ
 ワイからのボランティア
 チーム、そして水戸キリ
 ストの教会からのチーム
 と協力して行い、工場を
 綺麗にすることができま
 した。

今回工場主のアベさん
 とそのご家族の方が一緒
 に作業してくださり、自
 身の地震や津波の経験を
 お話してくださって、わ
 たしたちにとって今回の
 地震や津波の被害の大き
 さについて知るとてもい
 い経験になりました。ま
 た石巻市内は最後に訪問
 した6月よりも綺麗に片
 付いていて、復興の早さ
 に驚くばかりでした。
 また今回、ICANN と
 して文化祭で行ったアジ
 アンバザールの収益の一
 部を Be One チームに寄
 付させて頂きました。今
 回売り上げや募金に協力
 して頂いたすべての方々
 に感謝しています、あり
 がとうございました。今
 後も機会があれば、被災
 地の復興のお手伝いがで
 きればと思っています。

ベトナム人留学生留学感想

昨年4月からベトナムのフフリット大学の長期交換留学生として本学に留学中の2名の留学生、ヴィさんとチャンさんに日本に約1年間留学して考えたこと、感じたことを書いてもらいました。

日本とベトナムの かけ橋になりたい

チャンヴィトウイ

日本に来てからもう10ヶ月が経ちました。あと2ヶ月で帰国になりますから、最近の私の気持ちは複雑になっています。

12月にはホストファミリーと一緒に日本最大都市、東京へ行きました。

日立とは感じが全然違います。人が想像できないほど多くすごく混んでいました。世界で有名なブランドのお店がたくさん集っています。ヨーロッパとかアメリカの道みだいな感じがありました。

12月の午前中みんなですすはらいという仕事をやりました。私の仕事は窓のガラスを拭くことでした。午後家族が集まっ

と一緒にもち作りをしました。ベトナムのお正月にももちを作りますが、日本と作り方が全然違います。日本ではおもちの種類は小豆とか大根とかたくさんあります。ベトナムでもちを食べる時いつも塩胡椒と特別なお肉と一緒に食べます。初めておもちを作ったので、私のおちはなかなか丸くできませんでしたがだんだん慣れるようになってきました。とても楽しかったです。

11時15分ごろこたつのところトナムのお正月と同じだと思えます。ベトナムで毎年の除夜、仏教の信者の人たちはお寺へ行き、キリスト教の人たちは教会へ行きます。神社で鐘をやったり、祈ったり、おみくじをやったりしました。他には神社のお坊さんから見か人ももらいました。家へ



帰った時誰も疲れていたのに皆ニコニコしてくれました。帰ってから、ホームステイのお父さんが「しめかざり」をドアに

1月1日には、いろいろな食べ物が出てきました。どんな食べ物も工夫して飾ってありました。日本のお正月の食べ物には本当に豊富だと思いました。食事してからまたホームステイのお母さんのお父さんの所へ行きました。またもう一回お正月のお祝いパーティをやりました。おじいさんから

お年玉ももらいました。次の日はのんびりしていました。日本人と一緒に

お正月の体験ができ、すごく嬉しかったです。初めて外国でお正月を過ごした私はいろいろな思い出を作れたし、いつも自分の周りにはたくさん

の人がいますので、温かい感じで日本の年末年始を過ごすことができました。これからもつとつと日本語が上手になり日本とベトナムのかけ橋になりたいと思っています。

日本に来なければ 絶対に分からないこと

ブーンチャンティドアン

日本に来る前に、日本と日本人のことを全然知りませんでした。聞いてみたら、日本人はとても親切で優しい人だと言った先輩もいれば、頑固でお世辞が大好きな人たちばかりと言った先輩もいました。よく考えれば、その

理由だったのかもしれない。今となって、留学の1年間で何が一番よかったです。聞かれたら、日本人のことが少しわかるような気がすると思います。だと答えるつもりです。日本に来なければ、絶対に分からないことがあるからです。

1年間の日本での留学を通してたくさん体験ができて、たくさん人に接して、よくてもわるくてもたくさんホームステイの体験ができて、親切な人もそうでない人もいろいろの人に会いました。ホームステイに住むのは本当に面白い選択だと思

でも、ホームステイではこんな経験もありました。そこでみんなはともにも明るくて、親切にしてくれました。お互いに相手の文化を認めて、色々なことを教えたり学んだりしました。いい思い出になりました。

また、仕事のやり方がまずくて、信用できない人にも会いました。でもアルバイト先の人々の仕事のやり方は本当にすごくて、対応も親切で、やりがいがあると感じています。それこそ本当の勉強だと思えます。



いろいろなありました。がやっぱり日本での1年間の留学は、ベトナムではできないことができました。実際の日本が多少は理解できたと思っています。

ヨーロッパでの香道普及

昨年の8月29日から9月10日までフランス、オーストリア、スロバキアにて香道普及活動を行ってこられた堀口悟先生にヨーロッパでの活動についてお話しして頂きました。



香りも言葉を越えた文化交流

文化交流学科教員

堀口 悟

昨年8月29日から9月10日まで、フランスのパリ、オーストリアのウィーン、スロバキアのブラチスラバで、日本文化の一つ香道を普及すべく、活動してきました。

海外での香道普及は、09年の韓国、一昨年のドイツに続き、3年目になります。パリでは、香道実践はしなかったのですが、ヨーロッパの東洋文化研究の中心であるギメ美術館で、今後の香席開



ブラチスラバの日本大使館で

催について打ち合わせてきました。フランスなのに立派な茶室があります。ウィーンとブラチスラバでは、森謙二先生のご紹介のおかげで、香席を持つことが出来ました。一般には、ヨーロッパでは強い香水が好まれるので、日本の香道は理解されないのではないかと懸念する人が多いようです。何しろ、日本の香道で扱う香木は幽かな香りで、煙すら出ませんから……。

しかし、日本文化に興味があのような方々は、香道に対して理解も早いですし、香りの嗅ぎ分けも上手です。韓国の方々も同様で、日本人の理解力と差を感じませんでした。

良い匂いと香席の心地よい緊張感は、どの会場でも体験して頂けたようです。

音楽やスポーツと同様「香り」も言葉を越えて文化交流できる良い材料だ、という思いを深くして帰ってきました。



講師

茨城朝鮮初中高級学校校長
崔寅泰(チェ・インテ)氏

朝鮮大学校政治経済学部卒
東北朝鮮初中高級学校 教員
北海道朝鮮初中高級学校 教員(校長)

地球市民論 講演会 民族教育の歴史と 現状について

さる12月8日毎年恒例の地球市民論の講演会が開催されました。

今年も茨城朝鮮初中高級学校校長の崔寅泰氏をお招きし、「民族教育の歴史と現状について」の講演をしていただきました。

この講演会では、自分たちの子どもたちに朝鮮の文化や言語だけでも知ってほしいという思いが、在日朝鮮人の人々の思いや、朝鮮学校における民族教育の現状、日本の高校無償化制度における朝鮮学校の扱い、そして日本人との交流についてお話しして頂きました。

また、学生たちの質問にもたくさん答えていただき、充実した時間を過ごしました。

以下、学生の感想を紹介します。

初めて感じた 気持ち

私には韓国人の友人がいます。韓国人と朝鮮人の違いは良く分からないのですが、チェさんがおっしゃっていた「日本人も朝鮮人も関係なく、優しい人は優しい、親切な人は親切。」というのには私もそう思いました。授業のタイトルにもあるように、『地球市民』を象徴している話だと感じました。

同じ日本人の中で、朝鮮人という理由だけでチマチョゴリを切りつけたり暴言をはいたりする人がいるということに私はショックを受けました。

私は、「在日」という人達を特別気にして生きてこなかったし、なぜ「在日」の人たちがそんなにひどい扱いを受けなければならぬのか理由もわかりません。

お話の中で、朝鮮の人たち(在日の人たち)が、日本名に変える時にルーツの地名を名字として使うことが多いと聞き、とても大切なものなのだと、思いました。そういう気持ちはとても大切だと思ふし、日本人にはあまりない気持ちではないでしょうか。

今、朝鮮学校や日本の学校に通っている若い世代は、互いに理解し合える関係をきづいていけたらいいと思いました。

何も知ってはいなかった

私が初めから終わりで話を聞いて思ったところは、朝鮮学校、在日コリアンについて何も知らない



かったのだということでした。今まで朝鮮、朝鮮学校と聞くと、何か違和感というかもやつとした印象があり、うまく言葉に出来ないのですが、「自分たち」とは何かが違う学校の集団だと思っていました。

しかし今日の話聞いてみると、違い、もやもやの正体は、そんなものではなかった。それは無知から生じて報道をうのみにすることで生まれたものなのだろうかと思えました。

私は朝鮮に関する報道を良く見たりする中で、疑ってみることを全くしていなかった。話の中で出てきた文科省のこと、高体連のことを聴いて、単純にそんなことをするなんて良くない!と思えました。

韓国や朝鮮は歴史的な背景による感情によりごちやごちやと気にされていますが、一歩引いて客観的にみると、日本や他の国々となんら変わりのない国なのではないかと思いました。

よりよい交流のために出来ること

私の中の朝鮮というイメージは、核、拉致問題、独裁政権……などといった、マイナスイメージでした。でも、それらは全てメディアから得た情報であり、自分の目で確かめたわけではないので、決めつけてしまっていたことについて、申し訳なかったと反省しています。また、朝鮮学校の近くに住んでいながら、朝鮮学校について知ろうとしなかったことに対しても、後悔しています。

震災時にも自分たちのことで精一杯で、近くで皆さんが辛い思いをされていたことも今回初めて知

りました。今回の話を聞いて、私も祖國を離れて暮らして、肩身の狭い思いをしなければならなくなったとき、私は耐えることが出来るのだろうか?希望を持って生きていけるのかな?と不安になりました。在日朝鮮人の方々の立場になって考えてみて初めて、私たち日本人の理解がいかに大切なのかに気付かされました。

現在世界では、国際化が進んでいますが、もつとも近いはずの朝鮮と日本の間にはまだまだ厚くて高い壁があることを実感しました。

かつて稲作や文字、様々な文化を日本にもたらしてくれたのは朝鮮半島の人々でした。近く親しかったはずの国々がどうしてこのような状態になってしまったのか。朝鮮半島が北と南に分裂してしまつた原因には日本も大きく関わっているという話に、私は悲しくなりました。

私たちはこれから同じ過ちを犯さないために過去から学び、よりよい交

流が出来るように、今私たちに出来ることを模索すれば良いのだなと思えました。

メディアの過剰な報道に惑わされず、人と人とのコミュニケーションを中心に、一刻も早く在日朝鮮人の方々が安心して笑顔で暮らせる日本になり、少しずつ日本と朝鮮の距離が近づいてくれると良いなと思いました。

心揺さぶられる

今回の話は、私の考えを変えて下さいました。正直に言うと、私は今まで在日コリアンの方々にあまりよいイメージを持っていませんでした。しかし今日からはその考えを改めたいと思います。飴玉の話聞いた時、とても心をゆさぶられました。そして、とても考

えさせられました。また、外にいるときと家にいるときの父母の呼び方についての話もとても

も考えさせられることでした。普通だったら「アボジ」「オモニ」と呼ぶところを外では、「お父さん」「お母さん」と自らを守るために呼び方を



と違うからと偏見をもつていた自分が恥ずかしく思えました。これからは在日コリアンの方々を差別するのではなく、区別しつつ共存していきたいと思います。

【一面から続き】

実際私たちの教育をしてくれた人達は、違和感なく、お客さんが椅子に座ろうとしたら椅子を引いてあげたり、食べものを運ぶときには、口に触れるところに触らないようにしながら優しく置いたり、下げた皿を片手に5枚以上持ったり、一緒に働いてる私からしてもかつこよくて、あこがれた。

今回の体験の中でもっとも感動したのが結婚式の仕事だ。普通の宴会よりも準備も細かく、緊張した。宴会ではフオーローしてもらえたけど、一人一卓や二卓と担当が決められており自分だけでどうにかしなくてはならないし、身体も気持ちも疲れた。しかし、新郎新婦の幸せそうな姿や新婦の父の娘への手紙など、人生で普通は何回かしかできない体験を人よりも多くできるのはこの仕事の特権だと思う。

ホテルの仕事に興味のある人はぜひ来年参加するべきだと思います。

沖縄留学および沖縄大学交流会

今年度も終わりに近づいてきました。そろそろ留学も終わりの時期に近づいてきました。

今回は一年間沖縄大学に留学している塚本さんから感想を頂きました。また2月に行われる沖縄大学での交流会についても情報を頂きました。興味のある人や、行ってみたい、沖縄が好きと思っている人は必見です。大砂



沖縄市民クラブ主催沖縄世界遺産めぐり 首里城にて

辛いときも
あつたけど

文化交流学科2年
塚本美佳

沖縄交換留学をしてみ
て、私は大変だけど楽し
い！という思いが一番心
に残りました。茨城キリ
スト教大学では実家通い
だから、一人暮らしなん
で初めて経験しました。

何でも自分一人でやらな
ければいけないのは大変
で、時にはつらくて帰り
たいなと思った時もあり
ましたが、でも、やつぱ
り私は、沖縄が大好きで
沖縄の大学に行きたかつ
たから、つらさより楽し
さのほうが大きかったよ
うです。

これから沖縄交換留学
で沖縄大学に行く人がい
るなら「沖縄」が付く授
業・沖縄関係の授業を取
ることをお勧めします。
私もたくさん取りました
が、いいものを勉強して

いるなと思いました。茨
城キリスト教大学では絶
対に学べない授業だから
オススメします。あとは
サークルに入るのもオス
スメしたいです。私ほど
のサークルにも入ってい
なかつたのですが、きつ
つと楽しい生活が送れる
と思います。

それから皆さんにお知
らせです。
沖大との交流会が2月
17日(金)、18日(土)
と沖縄大学で開催されま

す！チ
ラシ・掲
示板とか
で見たり
聞いたり
している
人もいる
と思います
すがロン
ゴロンゴ
でもお知
らせしま
す。チラ

シには参加募集期間が書
かれていますが、まだま
だ受付可能です。ただ、
正確な人数が知りたいの

で、なるべく早めに教え
てください。
たくさんの人の参加を
楽しみにしています。



沖縄交流会 案内

日程 2012年2月17日(金) 18日(土)

一日目

場所 沖縄大学の多目的学習室

時間 13:00 ~ 18:00

内容 互いの大学のプレゼンテーション
互いの地域を知る
少人数での意見交換

二日目

沖縄観光案内(予定)

参加したい人、詳しく知りたい人、質問がある人は、下記の連絡先に学科・学年・性別・名前・内容を書いて送ってください。

締め切りは2月の初めです。

たくさんの方の参加を待っています。

連絡先

ic1014049@u.icc.ac.jp

代表者 文化交流学科2年 塚本美佳

就職活動体験記

震災、不況のなか見事内定を勝ち取った4年生に就活体験記を頂きました。3年生、2年生も参考にしてください。

文化交流学科4年

加部東 歩

何がしたいのかわからない

私が就職活動をスタートしたのは、去年の11月の中旬、キャリア支援センターの方々と東京ビッグサイトにの就職活動セミナーに参加したことがきっかけです。そのころは自分がどの職業に向いているのか、何がしたいのか全く分かりませんでした。

くしていました。夏休み前になるとあまりで内定がちらほら……心のどこかで去年よりも厳しい状況のせいだと考えていましたが、今までの自分の甘さと、力不足に気付かされました。

敵な女性になるのが目標なので、その思いから、「ホテルで働きたい」という気持ちが強くなりました。自分が今まで利用し、憧れていた企業に内定を頂いたときは本当に嬉しかったです。何かあったときに支えてくれた家族や友達ももちろん、キャリア支援センターの藤田さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、今年3月11日に東日本大震災が起き、就職活動どころではなくなってしまう。その影響で企業が減少し説明会も延びてしまいました。1ヶ月過ぎると落ちてきたので気合を入れて直して頑張りました。初めは、自分の興味がある大手企業ばかり見ていましたがどこも書類だけで落とされ、自信をな

それからは、気合が入り夏休みは暑い中スーツを着てがむしやりに動きまわりました。やっと個人面接までいくようになり、自分のスキルアップを実感してきたのを覚えています。この頃になりやっと将来の見通しがつくようになりまわりました。

誇れるもの

を見つける

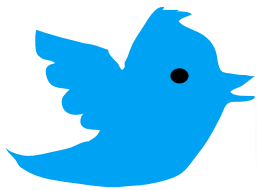
私は勉強もダメだし、運動もダメ、でもその他に誇れることはなんだろうと考えたときに、今までアルバイトで培ってきた接客力だと気付いたのです。その経験を生かした職業、そして将来は素

直す貴重な時間 就職活動は、様々な企業や場所、人と出逢え、そして自分を見つめ直せる貴重な時間だと思えます。誰にでも自分に合った企業が絶対にあるはず。就活と婚活はよく似ていると聞きますが、あとは、その企業との運

張ってください。自信を持って頑張ってください。

4年生のつぶやき

3月に卒業する、ロンゴロンゴ編集部員の4年生2人に、4年間の思い出を語ってもらいました。



ついに卒業が近づいてまいりました。四年間何があったかなーと振り返ると、一年次の時期の早すぎる宿泊遠足、斎藤先生にしごかれたブラインドタツチ、韓流ブームに乗って韓国留学、染谷先生の授業で行った朝鮮学校、腹痛に悩まされたベトナム・カンボジア、文化祭で見たお笑い芸人、嫌になるほど博物館巡りをした学芸員実習などなど。ゼミの発表前には泣きながら(!?)資料作成なんて日も。

でもそんなゼミのおかげで恥ずかしがり屋の私も人前で発表することに少し慣れました。図書館でマンガにどっぷりはまりながらも学業優秀賞をいただいたり、バイトでお金稼いでいるなんてころへ旅行にいったり。就職活動では第一志望から内定を頂けちゃいました。友達といれば意味もない話で爆笑したり、人ののろけ話にケチをつけたり。

「文化交流学科って何やるの?」なんて人から聞かれて、「うーん、いろいろ!」と四年間答え

【国井美紀】



カンボジアの学生と



みんなでスノボ！！

愛読書はCanCam、必須アイテムはつけまつけといった私ですが、大好きなカーディガン（ほとんどがピンク色）、お気に入りのスカートをはいて学校に通う毎日が本当に楽しかったです。

この四年間を振り返ると、色々な思い出が頭の中をぐるぐると駆け巡ります。斎藤ゼミで苦しみ考え、自分と向き合いながら卒論を書き終えたこと、染谷ゼミでは韓国に行き、キムチと毎朝格闘したこと、沖繩に行き現地の学生と交流をしながらみんなでバーベキュー

という間でした。そのなかで文化交流学科に入っ て本当に良かったと実感 しています。

幅広くあらゆる方向に 進めることができる文化 交流学科の可能性って本 当未知数。だからこそ、 自分はどうなりたいかを 無限に考えることが出来 る。自分の持つている可 能性を引き出してくれる 学科なんじゃないのかな あ（どや顔）。そんな素 敵で自由な学科って他に は無いんじゃないのかな あって思います。

色々なことを経験し、 吸収し、学ぶことができ た四年間。これらを糧に 日々女子力をあげながら 前進していきたいと思っ ます！

【中根梨紗】

**4年生が卒業し、
来年度から編集部員が二人と
なってしまいます。
ロンゴロンゴ存続の
最大の危機です！**

文化交流学科のみなさん、
ロンゴロンゴをもっと面白いもの
にしてみませんか！？
学年、性別関係なしです。活動し
た分、お給料がもらえます！！

rongorongo 編集部員募集！

編集部員の主な活動は、

- ・記事内容を考える
- ・原稿の依頼をする
- ・インタビューをする
- ・パソコンで原稿の編集作業をする
- ・完成品を配布する などです。

自分の考えたアイディアが記事になったり、文化交流学科のたくさんの学生と出会えたり、先生や留学生と仲良くなるチャンスもあります。

文化交流学科の最新ニュースや貴重な情報を手でできるのも魅力の一つですね。なにより新聞作成という貴重な体験が出来る、ひとつのことをやり遂げる達成感が味わえます。

詳しいことが聞きたい方、実際に見学してみたい方、ちょっとだけ気になるけど……という方も、藤田先生に連絡して頂くか、件名に rongorongo 編集希望と書き、本文に学年・氏名を書いて以下のアドレスに送ってください。

kaminaki10@yahoo.co.jp 代表者 大砂

編集後記

時間がない！
今回の編集作業は時間との勝負となりました。

直前での記事の内容変更や連絡ミスのお陰で編集作業が遅れぎりぎりの発行となりました。

今までは先輩たち主導のもと4人でやってきたけれど今のままでは来期からは2人で編集をしなくてはなりません。今回の状況を考えると、来年2人ではきついなと実感する日々です。早くメンバーが増えるといいな。たくさんの人がロンゴロンゴの編集に興味を持ってくれると良いのにな。

大学生活もテストが近づき、色々な問題を抱えながら頑張っている最中

【大砂友美】

休みが欲しい。今思えば冬休みはずっとバイトだったし、学校が始まったら別にリア充でもないのに忙しくて……皆さんこういう学生生活は送らないようにしよう。

とりあえずあと8分で6限が始まります。本当にヤバイです。編集後記にこんなこと書いても、どうにもならないのです……。 【遠藤緑子】

繰り返すということの意味を考えています。同じ（ような）ことを何度もし繰り返すと、じょじょに上手になります。それがわかると繰り返しが楽しくなります。自信もついてきます。学校で学ぶことにはこの繰り返しがあまりないのではないのでしょうか？ 例えば、図画工作では、版画や水彩やデッサンや粘土細工などいろいろなメニューがあり、広く浅くさまざまなことを見れます。幅広く体験してほしいという意図は分かります。でも、これって、見方を変えれば、慣れる前の難しいところばかりをやっているということではないのでしょうか？ 【藤田悟】